

祝

東九州自動車道 延岡宮崎間開通



一ツ瀬川

宮ノ東遺跡(西都市)



大正元年（1912年）古代日向の歴史を明らかにすることを目的に行われた西都原古墳群の発掘調査は、わが国における本格的な古墳の学術調査として考古学史にその名を残しています。それ以来、県内各地で多くの発掘調査が実施され、大きな成果を重ねてきました。

さらに、東九州自動車道建設に伴って行われた発掘調査は宮崎県の考古学史上極めて貴重な成果をもたらしたのです。平成7年から路線に沿って始まった調査では、166遺跡が発掘され、「点」としての調査成果が「線」として浮き上がりました。特に旧石器時代の調査では飛躍的に情報の蓄積が進み、県内外の研究者から注目されるエリアとなりました。

そういった中、県民待望の東九州自動車道延岡宮崎間の開通をむかえ、「みやざき発掘100年」を振り返るイベントを実施しました。



宮崎県埋蔵文化財センター通信

2013年 特別展『みやざき発掘100年 -いにしへの「道」と交流-』 を振り返って

東九州自動車道の整備事業においては、建設工事に先立って平成7年度から平成24年度にかけて大規模な発掘調査が行われ多くの成果がありました。その膨大な資料には、先人達が陸上あるいは海の道を通じて他地域と交流していた姿が深く刻まれていました。

東九州自動車道（大分県境～清武南間）関連遺跡の発掘調査完了をうけ、平成25年度に開催した本展覧会は、東九州自動車道関連の遺跡を中心に、西都原古墳群発掘調査以来100年にわたる宮崎の発掘調査の成果をこれまでにない規模で一挙に公開し、みやざきの先人たちが歩んだ道や交流について考える展覧会となりました。



開会式でのテープカット

関連イベント 記念講座「みやざき発掘100年物語」(5回シリーズ)

みやざき発掘100年の歩みを時系列にたどり解説する連続講座を5回シリーズで開催しました。延べ491名の方々にご参加いただき、「大正時代に行われた西都原の発掘調査」～「戦後間もない時期に行われた発掘調査」～「高度経済成長期の発掘調査」～「東九州道の発掘調査」～「今後の展望」と、4人の講師の方々にみやざきの発掘調査の歩みに触れていただきました。



シリーズ2 戦後の宮崎県の考古学調査
(講師：福岡大学名誉教授 小田富士雄氏)



シリーズ3 発掘調査に追われた日々
(講師：宮崎考古学会会長 岩永哲夫氏)



シリーズ5 考古学に何ができるか
(講師：宮崎県教委文化財課 北郷泰道氏)



内覧会の様子



展示状況



講座での解説

中・近世武士のたしなみ 『茶の湯』体験茶会



こんなイベントもやりました！



展示状況



埋文サポーターによる解説



会場の総合博物館特別展示室には会期中に1万4千人の方々にご入場いただきました。ありがとうございました。



2014年

県内3カ所を巡回します！

特別展の内容を地域に合わせて再構成した巡回展を開催します。また、各会場では展示解説を含む出張講座を開催予定です。

- 巡回展『みやざき発掘100年-いにしへの「道」と交流-』
- ①延岡会場 延岡市内藤記念館 7月5日～8月3日
 - ②えびの会場 えびの市歴史民俗資料館 8月12日～9月7日
 - ③日南会場 日南市南郷ハートフルセンター 11月11日～12月7日



鉄肥城下町遺跡(日南市)出土陶磁器



道路状遺構

大年遺跡は都城志布志道路の建設に伴って、平成24～25年度にかけて7,400㎡の範囲について調査を行いました。調査では旧石器時代から中世までの様々な遺構や遺物が確認されています。

中世では、1471年に桜島が噴火した際の噴出物（桜島文明降下軽石）で埋まった道路や道がみつかっています。畑とそれに隣接する道がセットでみつかり、当時の畑の様子がわかる貴重な資料です。また、みつかった道の一部は、場所を変えながら昭和の初め頃まで使用されてきたようです。

弥生時代～古墳時代では、^{かべんじゆう}竪穴住居跡が10軒ほどみつかっています。中にはいわゆる「^{かべんじゆう}花弁状住居」といわれる間仕切付きの住居が含まれているのが特徴です。

縄文時代晩期頃では、生活した痕跡である遺構はみつかりませんが、当時の人々が使用した遺物は多く出土しています。特に石器を作った際の石の破片である^{はくへん}剥片では、都城市域では産出しない黒曜石製のものの比率が高いのが特徴です。

最も古いところでは、12,800年前に桜島が噴火した際の火山灰（桜島

薩摩テフラ）と、シラス（入戸火砕流：28,000年前）の間で、旧石器時代の遺物が出土しています。

今回の調査によって、梅北地区では1万数千年以上前から人々が生活していたことを明らかにすることができました。また、縄文時代の黒曜石や、中世の道にみるように、幹線道路の一部として機能していた可能性が考えられます。



竪穴住居内でみつかった高環などの遺物

現地説明会を行いました

平成26年2月9日（日）に都城市の中床丸遺跡^{なかとこまる}で現地説明会を行いました。中床丸遺跡は都城市梅北町にあり、都城志布志道路の一部になる予定の場所にあります。

これまでの時点で、縄文時代早期の遺構・遺物や縄文時代後期・晩期の遺構・遺物が確認されています。特に掘り下げを進めている縄文時代早期の層^{しゅうせきじゆう}では、^{はくへん}集石遺構を検出し、土器や石鏃、剥片などが多数出土しています。火山灰層が厚く堆積しているため縄文時代早期の調査例が比較的少ない都城市域の縄文文化の解明に大きな役割を果たす可能性があります。

現地説明会には84名の方が現場を訪れ、調査員の説明に熱心に耳を傾けていました。



現地説明会の様子

出前講座に申し込みませんか？

宮崎県埋蔵文化財センターでは、職員が土器や石器などの遺物を持参し、依頼のあった学校や団体の皆様に、お住まいの地域・周辺の歴史についてお話しする「出前講座」を行っています。

利用の実績

- （学校関係）
- 児童・生徒の授業
- 教職員の研修
- 家庭教育学級など
- （一般）
- 生涯学習団体
- 公共施設
- 公民館
- 自治会
- 地域の行事など



小学校での出前講座の様子

連絡先：宮崎県埋蔵文化財センター分館
普及資料課
Tel. 0985-21-1600